

講義録レポート

講義録コード

講 座	証券アナリスト	科目①	市場と経済の分析
目標年	2011年合格目標	科目②	
コース	2次対策・速修セミナー	回 数	1 回
用 途	☒ 個別DVD ・ ☒ テープレクチャー ・ ☐ 集合DVD ☒ WEB ・ ☐ 衛星 ・ ☐ カセット通信 ・ ☒ DVD通信 ・ ☐ 資料通信		

収録日	2010 年 10 月 7 日		
講師名	峰滝 先生	講義録 枚数	1 枚 ※レポート 含まず
		補助レジュメ 枚数	2 枚 サイズ (一)

講義構成	講義 (3 /) 分		
使用教材	① 基本テキスト P. ~ P.		
	② 問題集 P. ~ P.		
	③ 例題集 P. ~ P.		
	④		
配布物	有 ☒ 無 ☒		
正誤表	有 ☒ 無 ☒ 枚		
備考			
	○ 共通レジュメ 有 ☒ 無 ☒ 第 () 回講義と共通		

TAC証券アナリスト講座

証券アナリスト講義録	科目 市場と経済	コース 2次速修 セミナー	回数 1
------------	----------	------------------	------

配布物	★ミニテスト：あり [] なし ★実力テスト：あり [] なし ◇配布物なし	★答 練：問題用紙・解答用紙・解答解説 ★その他のレジュメ []	講師 峰滝 先生
-----	--	--------------------------------------	----------

テキスト ページ	黒 板 内 容
	1. 融合型 2. 文書に書く, 記述 計算 グラフを書く レジュメ 1 ページ目 ③ 経済事情 → ① マクロ経済学 (国際経済) ex. H16 第1時限第3問 中国の人民元 → <u>購買力平価</u> 問題文 景気動向 <u>金融政策</u> テーラールール (政策金利) イー ルド・カーブ

証券アナリスト2次（2011年対策）

速修講義セミナー

－ 市場と経済の分析 －

1. 「市場と経済の分析」の概要

- 従来の「経済」科目が、平成20年（2008年）の本試験から「市場と経済の分析」に変更された。現在までに新プログラムに基づく試験は3回実施されている。
- 主な学習領域は、以下の通り。
 - ① マクロ経済学（国際経済学を含む）
 - ② ミクロ経済学
 - ③ 経済事情
- ① マクロ経済学は、新プログラム試験になっても中心的な学習分野になっている。中央銀行の金融政策や政府の財政状況など、経済政策との関係で出題されることも多い。
- ② ミクロ経済学は、新プログラム試験における最も特徴的な分野といえる。ゲーム理論と情報の経済学（逆選択、モラルハザード）について、特に具体的な数値例を用いた問題に多くあたっておく必要がある。
- ③ 経済事情は、現実の時事的な話題についての知識である。必ずしも協会通信テキストに基づいて出題される訳ではないので、対策が立てにくいところでもある。

2. 新プログラム試験の出題実績

▶ 過去3回の新プログラム試験で出題された問題は、以下の通り。

第1回（平成20年）	配点ウェイト	10.7%（＝経済45／満点420）
------------	--------	--------------------

- 第1時限・第1問 経済動向分析
業況判断DIと物価上昇率、政策金利、イールドカーブ
- 第1時限・第7問 金融政策とマクロ経済＋IS-LM分析
テイラールールに基づいて今後10年間の政策金利の方向を予想。
- 第2時限・第9問 複占市場とナッシュ均衡（ミクロ経済学）
クールノー・ナッシュ均衡となる各社の生産量を求める計算問題。

第2回（平成21年）	配点ウェイト	14.2%（＝経済60／満点420）
------------	--------	--------------------

- 第1時限・第1問 マクロ経済と株式投資収益率
GDPと企業業績の差異、労働分配率と株式投資収益率の関係等。
- 第1時限・第8問 国際経済・金融市場の諸問題
米国の双子の赤字、グローバルインバランス、人民元改革等。
- 第2時限・第9問 為替市場介入
不胎化介入と非不胎化介入、
IS-LM分析を用いた非不胎化介入の効果、投資戦略。

第3回（平成22年）	配点ウェイト	14.2%（＝経済60／満点420）
------------	--------	--------------------

- 第1時限・第1問 マクロ経済
日本の貯蓄投資バランスと国債市場
貯蓄投資バランスと資金過不足、少子高齢化と国債金利。
- 第1時限・第7問 ゲーム理論と情報の経済学（ミクロ経済学）
同時決定ゲーム、逐次ゲーム、貸出市場における逆選択問題。
- 第2時限・第9問 マクロ経済と金融政策
AD-AS（総需要-総供給）分析、デフレと企業収益の関係、
イールドカーブ（純粋期待仮説）、
インフレターゲティング（概要、問題点）